

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 峰小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	73人	算数	73人	理科	73人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	84人	算数	83人	理科	83人
------	----	-----	----	-----	----	-----

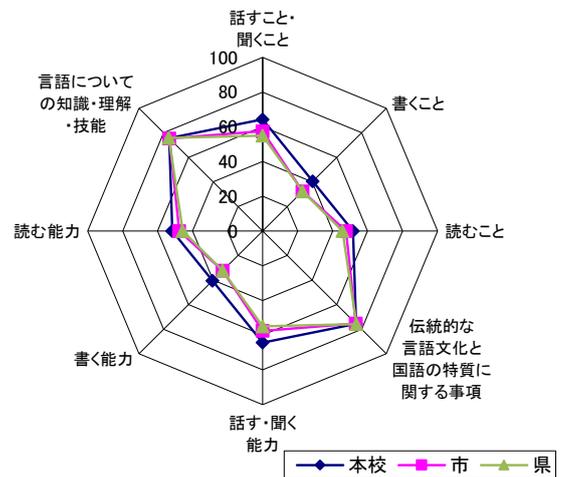
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立峰小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	64.3	57.5	54.9
	書くこと	40.4	32.3	32.3
	読むこと	51.6	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.5	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	64.3	57.5	54.9
	書く能力	40.4	32.3	32.3
	読む能力	51.6	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	75.5	75.3	75.8



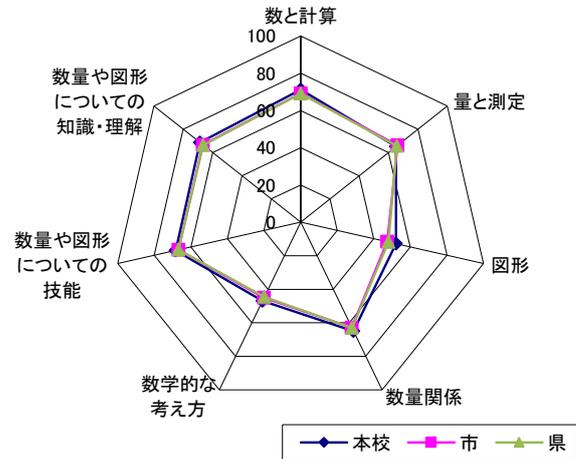
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○全体的な平均正答率は64.3%で、市及び県の平均をかなり上回っており、良好な状態である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・引き続き聞き方・話し方のルールを徹底し、朝の1分間スピーチや国語の時間などにおいて、要点を捉えて聞いたり話したりできるようにしていく。
書くこと	○全体的に市及び県の平均を8%程度上回っているが、40%程度の正答率であるため、満足できる状況とは言えない。 ●メモをもとに報告レポートのまとめを書く問題の平均正答率は1.4%で、県や市の平均正答率を5%程度下回っている。	・書く能力をさらに高めるために、日常の日記指導など、書く活動を意図的に取り入れていく。
読むこと	○登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える問題では、県や市の平均正答率を上回っている。しかし、平均正答率は25.4%なので、十分とは言えない。 ●段落相互の関係を捉えて説明文の内容を読む問題の平均正答率は38%で、県や市の平均正答率を5%程度下回っている。	・説明文の学習では、単元の最後に段落同士の関係を考える場面を意図的に設定する。また、文章読解のプリントを宿題で扱い、読解力を高めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みの平均正答率は89.2%で、市及び県の平均をやや上回っている。 ●漢字の書きでは、平均正答率73.2%で、市や県の平均を3%程度下回っている。特に、「市場」の書きが市の平均正答率を7%下回っている。 ●正しいローマ字の記述を選ぶ問題では、平均正答率が32.4%で、市や県の平均正答率を大きく下回っている。	・漢字ドリルや小テストなどを活用して反復練習を行い、漢字の定着を図っていく。 ・ローマ字プリントを宿題にしたり、パソコンの文字入力の練習をしたりして、繰り返し定着を図っていく。

宇都宮市立峰小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.2	69.2	69.1
	量と測定	65.1	66.1	65.6
	図形	52.1	47.4	48.0
	数量関係	65.0	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	47.0	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	68.3	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	68.7	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

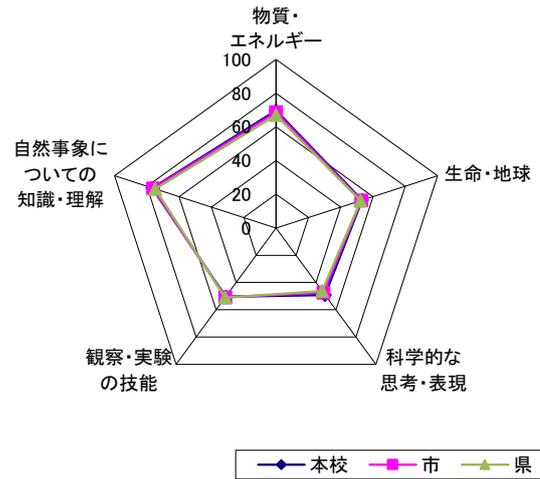
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本校の平均正答率は、市や県の平均と比べて、ともに2%程度上回っている。 ●「余りのある除法の計算の答えを確かめる」設問では市や県の平均を7%程度下回った。また、「数直線上で万の単位の数を読み取る」設問では、3%程度下回った。	・普段の学校でのテストでも計算ミスが目立つ。引き続き、たしかめ算等を活用しながら答えの確認をするよう声掛けをしていく。
量と測定	○時刻と時間の内容では、市や県の平均を若干上回っている。 ●長さ・重さの内容では、市や県の平均を3%程度下回っている。特に「算数の教科書1冊のおよその重さを選ぶ」設問では、8%以上下回った。	・今後学習する面積や体積の学習において、様々な具体物について大きさを調べたり、確かめたりするような活動を取り入れ、量の大きさについての感覚を豊かにしていく。
図形	○「1辺5cmの正三角形を作図する」「円周上の点Aを通る直径を定規を使って作図する」という設問の本校の平均正答率は、市や県の平均と比べて、ともに4ポイント程度上回っている。	・コンパスや分度器の使い方が分からず、作図の際にズレが生じてしまう児童が見られる。使い方をもう一度確認し、正しい使い方ができるようにしていく。
数量関係	○「式が表している意味を読み取り、適した考えを選ぶ」という設問の本校の平均正答率は、市や県の平均と比べて若干上回っている。	・今後も、立式や計算により答えを求めることだけでなく、どうしてそのような考えに至ったのか、途中の考え方を大切にし、数学的な考え方を育てていく。

宇都宮市立峰小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.6	68.6	66.9
	生命・地球	53.2	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	49.1	47.4	46.2
	観察・実験の技能	50.4	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	76.6	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○本領域の正答率は、県の平均を若干上回っている。「電気の通り道」の正答率は県平均を6.2%上回り、「はさみで明かりがつかなかった理由を説明する」設問は、「持つところがプラスチックで電気を通さない」と、様々な素材で調べた活動の結果、よく身に付いている。また、「風やゴムの働き」は、力と物の動く様子に着目して比較しながら調べる活動を充実した結果、正答率は県平均を4.5%上回っている。</p> <p>●「ものづくりで利用している磁石の性質が分かる」という設問の正答率は、市平均を6.6%下回っている。</p>	<p>・フォローアップシートを活用して、「磁石の異極は引き合い、同極は退け合う」という「磁石の性質」について復習し、知識の定着を図る。</p> <p>・観察実験などを通じて、科学的に探究する学習活動における指導を一層充実する。</p>
生命・地球	<p>○本領域の正答率は、市および県の平均と同等である。「身近な自然の観察」の正答率は、県平均を6.8%上回っている。</p> <p>●「記録から温度を測った場所を選び、その理由を説明する」という設問の正答率はわずか4.2%で、市および県の平均を10%以上下回り、無解答率も19.5%と高い。他の設問を含め、記述問題を不得手とする傾向がある。</p>	<p>・フォローアップシートをを活用し、特に「昆虫と植物」「太陽と地面の様子」について復習させ、知識の定着を図る。</p> <p>・「方位磁針の使い方」については、授業の中で再度指導する。「1日の太陽の動き方」については、4年生で学習する「月や星の動き」と併せて、実生活と結び付けて理解できるように工夫して指導する。</p> <p>・「実験・観察の技能」に個人差が見られるため、実験器具の扱い方や実験手順などをその都度丁寧に指導するとともに、友達任せとせず、全ての児童が自ら操作できるように配慮する。</p> <p>・記述問題については、観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習活動を充実することで、自分の考えを自分なりの言葉で書き表す力を育成する。</p>

宇都宮市立峰小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「1か月に何冊本を読むか」の問いに対して、1冊以上と回答した児童の割合は97.2%で、県や市の割合を上回っている。朝の読書の時間の設定やリレー家読の実施の成果だと考えられる。

○「毎日の生活が充実しているか」「人と話すことは楽しいか」の問いに対する肯定率は、県や市の割合を上回っている。明るく充実した学校生活を送っていることがうかがえる。

○「毎日朝食を食べている」の問いに対する肯定率は100%である。また、「自分は家族の大切な一員だと思う」に対する肯定率は90%を超えている。家庭で大切にされている様子がうかがえる。

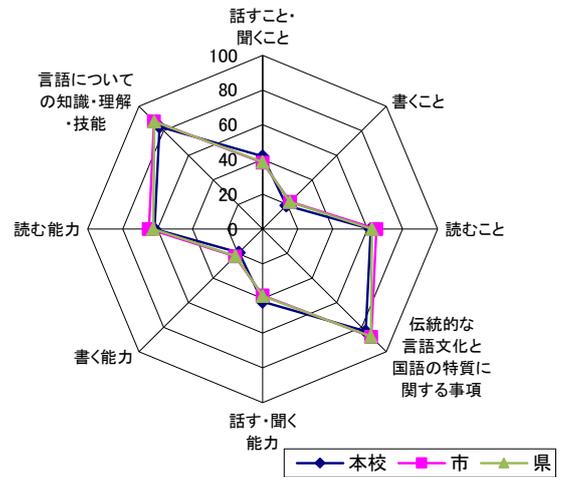
●「平日にどれくらいの時間勉強するか」の問いに、30分以上と回答した児童の割合は76%で、県や市の割合を5%以上下回っている。4年生の家庭学習時間の目安40分を満たしていない児童が2割以上いる。また、「家で同じ時刻に学習に取り組んでいる」と回答した児童の割合は、県や市の割合を10%以上下回っている。家庭学習の大切さを再度指導し、家庭に呼びかけ、家庭学習の習慣化を図っていく。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ているか」の問いに対する肯定率は66.2%で、県や市の肯定率を10%程度下回っている。折に触れて世界や日本国内のニュースを取り上げ、社会の動向に関心をもつように働きかける。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	41.8	38.3	38.5
	書くこと	19.3	22.3	21.9
	読むこと	61.8	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.3	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	41.8	38.3	38.5
	書く能力	19.3	22.3	21.9
	読む能力	61.8	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	83.3	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

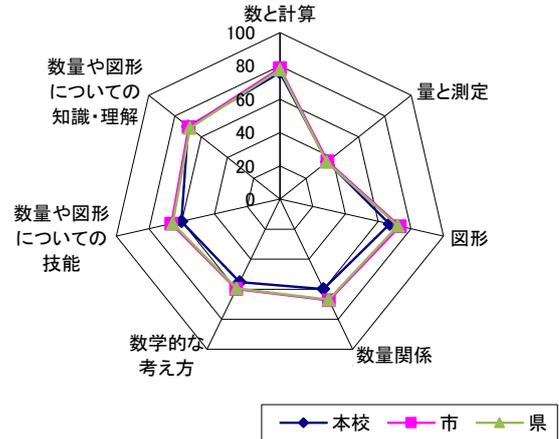
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均は県・市から約3%上回っている。 ○「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」の設問の正答率が県・市の平均を3%上回っている。	・ペア、グループ、全体での話し合いの時間を確保する。 ・「話し方」「聞き方」の指導を繰り返す。 ・話し合いの手順を明確に示す。 ・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。
書くこと	●平均は県・市から約3%下回っている。 ●「書こうとすることの中心を明確にして書く」の設問では、県からは6%、市からは9%、平均を下回っている。	・作文指導では、書きたいことの中心を明確にさせるために、作文構成メモの指導を充実させる。 ・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。
読むこと	●平均は県から約3%下回っている。 ●「文章の要点や細かい点に注意して読み、言葉を引用する」の設問では、県からは6%、市からは9%、平均を下回っている。	・文章を正確に読むことを意識させる。そのために変化をつけながら繰り返し文章を読ませる。発問をする際には、児童が、文章の叙述を根拠に答えられるように留意する。 ・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均は県・市から約3%下回っている。 ●漢字の書き取りの一部の設問では、県・市の平均から20%下回った。 ●「慣用句の使い方」の設問では、県・市の平均からは6%下回っている。	・ただ繰り返し練習させるのではなく、筆順を意識させたり、小テスト、まとめテスト等を有効に活用したりすることで、漢字を習得させる。 ・慣用句を意識できるように、日常生活で意図的に使ったり、文章中の慣用句を取り上げて例文を考えさせたりする。 ・フォローアップシートを活用して、習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.0	78.6	77.7
	量と測定	36.0	36.3	35.7
	図形	67.1	73.3	72.1
	数量関係	59.9	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	55.2	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	60.2	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	69.9	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

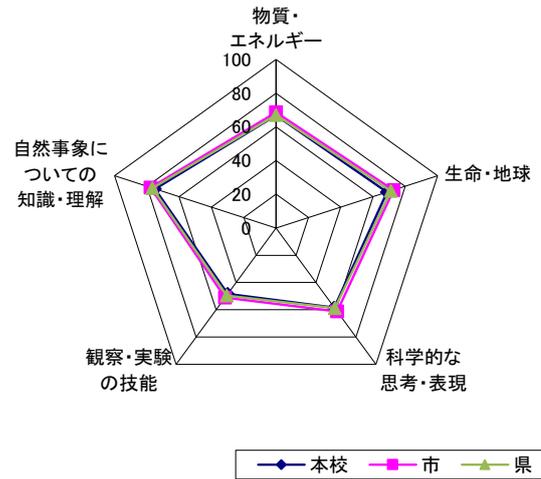
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●平均は県・市から2%程度下回っている。 ●「3位数÷2位数=2位数(商に空位, あまりあり)」の問題の正答率は県から17%, 市から19%下回っている。 ●「帯分数-真分数」の問題の正答率は県・市から7%程度下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わり算の筆算でつまづいている児童が多いので, 毎週月曜日の朝の学習の時間に, 複数の指導体制で補充問題を行う。 ・フォローアップシートを活用して, 習熟を深める。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ○平均は県・市とほぼ同様である。 ○「およその面積を推測して選ぶ」の問題の正答率は, 県・市を4%上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概数の表し方を忘れてしまっている児童も多く見られるので, 授業中に折りに触れ指導する。 ・フォローアップシートを活用して, 習熟を深める。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●平均は県・市から6%程度下回っている。 ○「面積・角の大きさ」の問題の正答率は県・市とほぼ同様である。 ●「定規とコンパスを使って続きをかくて, 平行四辺形を完成させる」の問題の正答率は, 県から5%, 市から6%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作図に戸惑う児童も多く見られるので, 手順をデジタル教科書等, 視覚支援を有効に活用しながら, スモールステップで指導する。 ・フォローアップシートを活用して, 習熟を深める。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●平均は県・市から7%程度下回っている。 ●「折れ線グラフから下がり方の一番大きい部分を答える」の問題の正答率は県・市から7%程度下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取り方は繰り返し指導する。グラフの書き方については, デジタル教科書等, 視覚支援を有効に活用しながら, スモールステップで指導する。 ・フォローアップシートを活用して, 習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.8	68.6	67.0
	生命・地球	68.7	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	58.4	61.2	58.8
	観察・実験の技能	48.4	51.0	49.5
	自然現象についての知識・理解	75.0	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●平均は県から約2%下回っている。市とはほぼ同様である。 ●「空気と水の性質」の設問では、県から約3%、市から約4%下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「科学的な思考・表現」を高めるために、実験や観察後には「なぜそうなったか」を思考させる時間を十分にとり、それぞれの考えを深めさせるようにする。 ○「観察・実験の技能」を高めるために、まずは教科書を用いて、基本的な観察・実験技能（顕微鏡の使い方、ルーペの使い方、ガスバーナーの使い方、ピペットの使い方等）を習得させる。その上で、観察・実験の内容に合わせて、個々に観察・実験内容を思考させる場面を設定する。 ○フォローアップシートを活用して、習熟を深める。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●平均は県から約4%下回っている。市からは約2%下回っている。 ●「天気の様子」も設問では、県から約9%、市から約11%下回っている。 ○「太陽と地面の様子」の設問では、県・市から約7%上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自然現象についての知識・理解」を高めるために、自然現象について、模型やICT機器を活用して、視覚的に理解できるようにする。その上で、覚えるべき用語等を小テスト等を活用しながら、習得させる。 ○フォローアップシートを活用して、習熟を深める。

宇都宮市立峰小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「早寝早起きを心がけている」の設問では、肯定的な回答割合は、県・市から10%以上下回っている。授業の意欲を高める上でも「早寝早起き」は重要である。家庭へ呼びかけるとともに、保健体育、学級活動等で指導していく。
- 「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の設問では、肯定的回答割合は、県・市から6%以上下回っている。児童が進んで学習に取り組めるような授業展開を工夫する。算数では、習熟度別学習を行うことで、学習に対して意欲的な児童も、苦手意識をもつ児童も満足できる授業ができるように教材研究に努める。
- 「本やインターネットを利用して、勉強に関する情報を得ている」の設問では、肯定的回答割合は、県・市から10%以上上回っている。総合的な学習の時間等でパソコン室や図書室を活用して、指導してきた成果だと思われる。継続してパソコン操作や図書資料の活用の仕方を指導する。
- 「先生は学習のことを褒めてくれる」の設問では、肯定的回答割合は、県から7%以上上回っている。今後も児童の努力している姿を認め、褒め、励ますことを継続していく。
- 「家で学校の授業の復習をしている」の設問では、肯定的回答割合は、県・市から10%以上下回っている。復習の大切さを繰り返し話すと共に、自主学習を進んで行っている児童の取り組みを紹介したり、興味関心を引く宿題を出したりする。
- 「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」の設問では、肯定的回答割合は、県・市から6%以上下回っている。授業で、すぐに辞書を引ける環境を整えるようにする。